

高知新聞

須崎工業高等学校

須崎の津波想定模型に

宮古工高生製作 須崎工高に寄贈



宮古工高生が製作した津波模型。水を流すと浸水状況が分かる(須崎市の須崎工高)

【須崎】東日本大震災で被災した若手県宮古市の宮古工業高校の生徒が、南海トラフ地震で津波被害が予想される須崎市周辺のシオラマを製作し22日、須崎工業高校に贈った。津波に見立てた色水を流して浸水状況

を具体的にイメージできる模型で、宮古工高の生徒たちは「一人でも多くの命が助かってほしい」と思いを込めた。

模型は1・8四方で、須崎市と高岡郡中土佐町の沿岸部を1万分の1のサイズで再現している。等高線に沿ってベニヤ板を重ね、粘土と繊維強化プラスチック(FRP)で地形を表現。昨年度、課題研究の授業で機械科の「津波模型班」が完成させた。

宮古工高は東日本大震災で校舎1階が浸水する被害に遭った。震災前の2005年から宮古市などの模型作りを取り組んでおり、小中学校などで津波の危険性を伝える実演会を開いている。

今回の模型は12基目。昨年1月に神戸市で開かれた「ぼうさい甲子園」で両校の交流が始まり、「南海トラフ地震に備えてもらおう」と模型を製作して寄贈する話が持ち上がった。

贈呈式に合わせ、宮古工高の及川晃貴校長や生徒ら6人が来高した。本県側からは須崎工高のほか、須崎高、室戸高の生徒らも参加。宮古工高生が持ち込んだ機械を使って模型上に水を流し、浸水領域が広がっていく様子を見学した。

宮古工高3年の門屋英一さん(17)は「模型を通じて、自分の住んでいる地域を知って、津波が来たら高いところに逃げてほしい」と話していた。須崎工高は今後、津波を疑似発生させる装置を自作し、防災教育などに生かしていく予定という。(山本 仁)

須崎市周辺津波模型贈呈式開催



宮古工業高来校！！